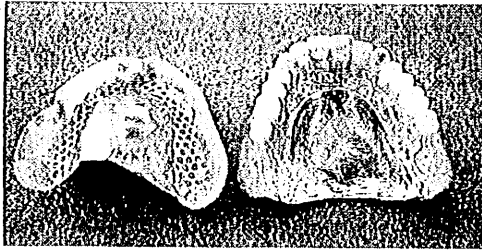


貴金属メッキ処理業のシンテック(福島県いわき市、赤津和三社長)は八月、いわき市と郡山市の県内二カ所で新工場を稼働する。金属床義歯と呼ばれる歯と歯茎以外の大部分を金属で作った入れ歯に特殊なメッキ加工をする。長期間使用しても光沢のある白色を維持できるのが特徴。義歯国内最大手の和田精密歯研(大阪市、和田主実社長)向けに技術開発したもので、月五千個を加工処理して同社に納入する。

入れ歯に特殊メッキ加工

2工場を新設



光沢を持たせた入れ歯の金属床の表面①とざらつきを持たせた裏面

シンテック

耐食性に優れる

いわき市の本社近くと郡山市東部のメッキ工場が複数立地する地区に、

それぞれ敷地面積百平方メートルほどの工場を建設する。メッキ加工はトラブル発生時に短期間で他工場に発注するのが難しいため、拠点を二カ所に分ける。設備投資は約二千万円。最大五人を新規採用する。

金属床義歯の金属床とは、入れ歯の歯と歯茎の部分を増強する薄い金属の板。患者の口内の形に合わせて作る。今回はチタン合金製の金属床をロジウムメッキと呼ばれる手法で処理する。軽く、人体にも適合しやすいため普及が進むチタン合金製だが、利用するうちに唾液(だえき)などで黒ずみ、口の中が暗く見えるようになるのが難点。シンテックのリン酸を使った特殊なロジウムメッキの技術により、光沢がある白色で耐食性に優れた表面

処理をする。

光沢のある表面は水をはじめやすく、だ液が少くない高齢者などはどが濁ってしまう欠点がある。このため着用時に見えるようになる裏面は、電解処理でザラザラにして親水性を高める。

製造法は特許出願中。メッキの難しいチタン合金の表面に薬液を塗ったり、洗浄したりといった約三十工程の手作業をする。初年度六万個を加工

して和田精密歯研に納入許可を二〇〇八年中にし、約二億円の売り上げも見込む。

シンテックは一九九六年四月設立の開発型ベンチャー。携帯電話機用二段式アンテナのほか、高性能電波腕時計向けアンテナの量産技術を確立。貴金属メッキ技術を得意とし、今後は付加価値の高い医療機器分野向けの研究開発を強化する。医療機器の完成品の製造が可能で「医療機器製造業